

連絡先：自動車局審査・リコール課リコール監理室
 TEL 03-5253-8111 内線 42354
 アドレス： <http://www.mlit.go.jp>

リコール届出一覧表

リコール届出日：平成30年2月1日

リコール届出番号	4172	リコール開始日	平成30年2月2日
届出者の氏名又は名称	マツダ株式会社 代表取締役社長 小飼 雅道 問い合わせ先：マツダ（株）コールセンター TEL 0120-386-919		
不具合の部位（部品名）	① 原動機（エンジン制御コンピュータ） ② 原動機		
基準不適合状態にあると認める構造、装置又は性能の状況及びその原因	① ディーゼルエンジンにおいて、エンジンの保護制御が不適切なため、無負荷状態でアクセルを全開した際に燃焼異常が発生しても、エンジン保護機能が作動しない。そのため、燃焼異常により燃焼圧力が上昇し、最悪の場合、エンジンが破損するおそれがある。 ② ディーゼルエンジンにおいて、低車速で加減速する走行を繰り返すと、燃焼時に発生する煤の量が増え、インジェクタ噴孔部に堆積し、燃料の噴霧状態が悪化することで、さらに煤の量が増え、排気側バルブガイド周辺に堆積することがある。そのため、排気バルブが動きにくくなり、圧縮低下による加速不良や車体振動が発生するとともに、エンジン警告灯が点灯あるいはグローランプが点滅し、最悪の場合、エンジンが停止するおそれがある。		
改善措置の内容	① 全車両、エンジン制御プログラムを対策プログラムに修正するとともに、エンジンおよびDPF（黒煙除去フィルタ）に堆積した煤を清掃する。 ② 使用者に当該不具合を周知し、エンジン警告灯が点灯あるいはグローランプが点滅した場合は、速やかに点検入庫するよう促す。また、点検入庫した場合には、エンジン制御コンピュータ等を点検し、排気バルブのバルブスプリング、インジェクタを無償で交換するとともに、エンジンおよびDPF（黒煙除去フィルタ）に堆積した煤を清掃する。		
不具合件数	① 21件 ② 720件	事故の有無	無
発見の動機	市場からの情報による		
自動車使用者及び自動車分解整備事業者に周知させるための措置	・使用者：ダイレクトメール等で通知する。 ・自動車分解整備事業者：日整連発行の機関誌に掲載する。 ・改善実施済車には、運転席側ドア開口部のドアストライカー付近にNo. 4172のステッカーを貼付する。		

車名	型式	通称名	リコール対象車の車台番号の範囲及び製作期間	リコール対象車の台数	備考
マツダ	LDA-DJ5AS	「デミオ」	DJ5AS-100009～DJ5AS-302568 平成26年11月4日～平成29年10月27日	13,639	① 13,631 ② 13,639
	LDA-DJ5FS		DJ5FS-100032～DJ5FS-312015 平成26年8月5日～平成29年10月30日	73,319	① 73,208 ② 73,319

車名	型式	通称名	リコール対象車の車台番号の 範囲及び製作期間	リコール対象 車の台数	備考
	LDA-DK5AW	「CX-3」	DK5AW-100027～DK5AW-203764 平成26年12月16日～平成29年10月28日	17,728	① 17,670 ② 17,728
	LDA-DK5FW		DK5FW-100053～DK5FW-208913 平成26年12月16日～平成29年10月28日	42,438	① 42,242 ② 42,438
	LDA-BMLFP	「アクセラ」	BMLFP-100002～BMLFP-100356 平成29年8月1日～平成29年10月30日	355	① 337 ② 355
	LDA-BMLFS		BMLFS-100011～BMLFS-111454 平成28年5月26日～平成29年10月30日	11,306	① 11,198 ② 11,306
	(計6型式)	(計3車種)	(製作期間の全体の範囲) 平成26年8月5日～平成29年10月30日	(計158,785台)	① 158,286 ② 158,785

(備考) 本届出②は、平成28年9月1日付け届出番号「3885」のリコール届出において、新たな原因が判明したため、リコールを実施するものである。

【注意事項】

リコール対象車の車台番号の範囲には、対象とならない車両も含まれている場合があります。